

カモの食事 Part 2

今回はカモ類の食事について簡単に述べました。今回はその続編です。

写真はウェットランドで越冬するハシビロガモです。漢字で書くと嘴広鴨。ほとんどのカモ類のクチバシは幅が広い形をしています。ハシビロガモはその極端な例といつてよいでしょう。



扁平なクチバシは、採餌の方法と密接な関係があります。今回は水底の藻類を食べる際の逆立ち採餌を強調しましたが、ウェットランドでカモたちが見せるもう一つの採餌のスタイルが、水面採餌と呼ばれるものです。クチバシを水面に水平に浸してせまく開閉しながら、水面に浮かぶ草の種子などを濾しとっていきます。濾過に便利のように、クチバシの両側縁は上下とも浅い櫛形になっています。この水面採餌の機能をもっとも強化させたのがハシビロガモで、クチバシを大型化しただけでなく、濾過用の櫛形を緻密にして、微細なプランクトンまで濾しとることができるようになっています。

魚食に特化したカモ類として、カワアイサやウミアイサなどがいますが、そのクチバシは、細くて先が鉤型に曲がり、カワウやウミウとそっくりな形になっています。一方、海域で貝やカニやゴカイなどの底生動物を主食とするカモ類は、水面採餌をすることはなさそうですが、クチバシの形はやはり扁平です。餌といっしょにすくってしまった泥や砂を、濾し出しているのではないのでしょうか。